

まずは最初に酒1樽^{たる}を用意させて山中の旅の無事を祝おうとしたところへ、根室^{ねむろ}へ使者として出向かれる途中の橋本悌藏氏^{はしもとていぞう}がここに泊まっているのに出会いました。

それで、橋本氏からも私たちの無事を祝おうと酒1樽を贈つていただいたので、それも併せて弁財天^{べんざいてん}を祀る神社までアイヌたちと運び、神前に一同が座り、頭を上げて見回せば、私たちが越えてきた石狩の山々の峰^{みね}が遠くの空に見え、空知^{そらち}、佐幌^{さほろ}の山々も雲か霞^{くもかすみ}かというほど遙か彼方^{かなた}に見えました。ここでつたない歌を一首、アイヌたちにイナウをつくらせ、その柄^えに書き記しました。

祝詞^{のりと}

日本と蝦夷^{えぞ}、国じゅうにいらつしやる

すべての天の神、地の神様にお願い申し上げます

この国^が安泰^{あんたい}で、海が安全で、野蛮^{やほん}な外敵^{がいてき}を打ち払^{はら}うことができ、土地の開拓^{かいたく}がすすみさまざまな穀物^{こくもつ}が豊かに実りますように

鳥だにも 通ひぞかたき 石狩の

山路をかるがろ 我は越けり

弘^{ひろ}（松浦武四郎）

（石狩山地は険しく、空を飛ぶ鳥さえもその行き来は簡単ではありません
しかし私はその山を軽々と越えてここにやつてきましたよ）



十勝太遺跡

旅の終着点であるオホツナイでは、約1000年前の集落跡が見つかっている。